

(17) ねぎ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
萎凋病	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースポット1冊(30×60cm、使用土壌約5%) 当り1%	定植前	苗床灌注	1回	ねぎ
					50倍	-	定植直前	5～30分間苗根部浸漬	1回	ねぎ
黒斑病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジマンタイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ストロビーフロアンプル	クレスキシムメチル水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
さび病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	オンリーワンアンプル	テブコナゾール水和剤	3		1000倍	150～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジオゼット水和剤	ポリオキシシン水和剤	"[-](I*)		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ストロビーフロアンプル	クレスキシムメチル水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	パレード2070アンプル	ピラジフルミド水和剤	7		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベジセイバー	ペンチオラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	メジャーアンプル	ピコキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	ラリー水和剤	マイクロタニル水和剤	3		2000倍	150～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
白絹病	アフェットアンプル	ペンチオラト水和剤	7		1000～2000倍	1%/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	2回以内	ねぎ
					2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ
	ジオゼット水和剤	ポリオキシシン水和剤	"[-](I*)		500倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ディートラベックス油剤	メチルイソシアネート・D-D油剤	0,8A,8F	劇	30～40%/10a		は種又は植付の14日前まで	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。	1回	ねぎ
	ベジセイバー	ペンチオラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	モンカト粒剤	フルラニル粒剤	7		4～6kg/10a		土寄せ時 但し、収穫30日前まで	株元散布	4回以内	ねぎ
モンガリット粒剤	シメコナゾール粒剤	3		4～6kg/10a		土寄せ時 但し、収穫14日前まで	株元散布	3回以内	ねぎ	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
軟腐病	オリゼート粒剤	プロパザール粒剤	P2		6kg/10a		土寄せ時 但し、収穫30日前まで	株元散布	2回以内	ねぎ
	ヨネソク水和剤	ニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ねぎ
葉枯病	アミスター2070アブル	アゾキストロビン水和剤	11		2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	プロボース 顆粒水和剤	ベンチアバリカルブ イソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
べと病	アミスター2070アブル	アゾキストロビン水和剤	11		2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジマンタ イオン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	プロボース 顆粒水和剤	ベンチアバリカルブ イソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオキサト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	リトミルコート MZ	マンゼブ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
アザミウマ類	アルバリン顆粒水溶剤	ジネフラン水溶剤	4A		1000倍	1g/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
					400倍	0.4g/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0g)当り0.5g	定植前日～定植時	灌注	1回	ねぎ
	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	30		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	スタークル顆粒水溶剤	ジネフラン水溶剤	4A		1000倍	1g/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
					400倍	0.4g/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0g)当り0.5g	定植前日～定植時	灌注	1回	ねぎ
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		700～1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ
	ハチハチ乳剤	トルフェンピラト乳剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名						
アザミウマ類	ペリマクSC	シアントラニプロール水和剤	28		2000倍	0.5% ¹ /m ²	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ						
					400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4% ¹) ² 当り0.5% ¹	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ねぎ						
シロイロシヨウ	アグロスリン乳剤	シペルメトリン乳剤	3A	劇	1000倍	100～300% ¹ /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	ねぎ						
	プロバソフアプロル5	クロラントラニプロール水和剤	28		2000倍	100～300% ¹ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ						
	ペリマクSC	シアントラニプロール水和剤	28		2000倍	0.5% ¹ /m ²	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ						
400倍					セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4% ¹) ² 当り0.5% ¹	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ねぎ							
タネバエ	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	ねぎ						
ネキアザミ	アペイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニプロール粒剤	28,4A		セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4% ¹) ² 当り40g		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	ねぎ						
							ウララDF	フロニカミド水和剤	29	1000～2000倍	100～300% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ	
							カスケート乳剤	フルフェクスロン乳剤	15	4000倍	100～300% ¹ /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ	
ネキアザミ	コルト顆粒水和剤	ピリフルキサゾール水和剤	9B		2000倍	100～300% ¹ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ						
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300% ¹ /10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ねぎ						
	リーフガード顆粒水和剤	チオシラム水和剤	14	劇	1500倍	100～300% ¹ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ						
ネキコガ	グレーシア乳剤	フルキサミド乳剤	30		2000～3000倍	100～300% ¹ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ						
ネキハダクシバエ	アペイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニプロール粒剤	28,4A		セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4% ¹) ² 当り40g		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	ねぎ						
							カスケート乳剤	フルフェクスロン乳剤	15	4000倍	100～300% ¹ /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ	
							コテツフロアプロル	クロルフェピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300% ¹ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
							ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・ステロイド水和剤	「-」,5	1000倍	100～300% ¹ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ネギハダカ	ディナSC	スピネラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ
	リーファート 顆粒水和剤	チオンラム水和剤	14	劇	1500倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
ネギニ類	アプロートフロアブル	ブプロフェジソン水和剤	16		500～1000倍	1～3 μ g/m ²	収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
	ラグビートMC粒剤	カズサホスマイクロプロセル剤	1B		20kg/10a		定植前	全面処理土壌混和	1回	ねぎ
ハダカニ類	グレース乳剤	フルキサメタミド 乳剤	30		2000～3000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	プロロッソ粒剤オメガ	シアントラニプロール粒剤	28		6kg/10a		収穫前日まで	株元散布	3回以内	ねぎ
	ペリマークSC	シアントラニプロール水和剤	28		2000倍	0.5 μ g/m ²	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 μ g)当り0.5 μ g	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ねぎ
	ミネトデオ粒剤	シアントラニプロール・チアメキサム粒剤	28,4A		6kg/10a		収穫3日前まで	株元散布	3回以内	ねぎ
					6kg/10a		定植時	作条散布	1回	ねぎ
					6kg/10a		定植時	植溝土壌混和	1回	ねぎ
					セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 μ g)当り40g		育苗期後半	散布	1回	ねぎ
	ヨーパールフロアブル	テトラニプロール水和剤	28		200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 μ g)当り0.5 μ g	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ねぎ
					2500～5000倍	100～300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ
25倍					1.6 μ g/10a	収穫3日前まで	無人航空機による散布	3回以内	ねぎ	
展着剤	ドライバー	展着剤			2～10mL/散布液 10 μ g(1000～5000倍)		添加		野菜類	

新しい病気ネギ褐色腐敗病の防除対策

1 はじめに

ネギは本県の水田園芸の基幹作物ですが、最近、褐色腐敗病が問題となっています。本病は葉鞘軟白部に褐色の条斑が発生する病気で、品質低下だけでなく、収量も低くなります(図1)。高温多湿条件で発生がしやすくなることから、8～9月に雨が続く時に、ヨネポン水和剤で軟腐病を防除すると本病も少なくなります。しかし、本病での登録はありません。そこで、耕種的な防除法を紹介します。



図1 軟白部褐色条斑症状

2 作型

本病は高温多湿条件で発生がしやすくなることから、8～9月に多発生するので(図2)、10月上旬までに収穫する作型では被害が問題となります。

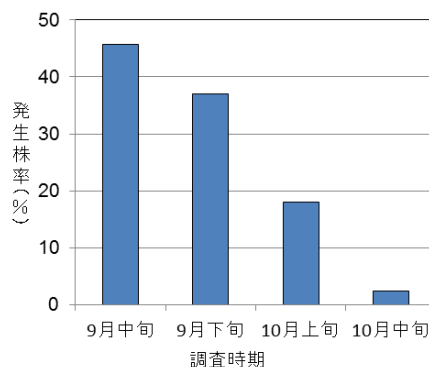


図2 褐色腐敗病の発生時期

3 品種

発生が心配される圃場では、夏扇パワー、夏の宝山の品種を植付けると発生を少なくすることができます(図3)。

4 消石灰とオオムギ緑肥施用

消石灰とオオムギ緑肥を土壤に混和すると病原菌密度が低くなる傾向があります。5月下旬にネギの条間にオオムギを播種すると、7月上旬には生育が旺盛となり、8月上旬には枯上がりします。8月上旬にオオムギを刈取り、消石灰を200 kg/10a施用し、8月中旬に同時にすき込むと、発病株率は7%と無処理区の約半分にすることができます。可販収量もわずかに増加します。また、消石灰の単独施用でも発病株率は8.2%と無処理より発生が少なくなります(表1)。

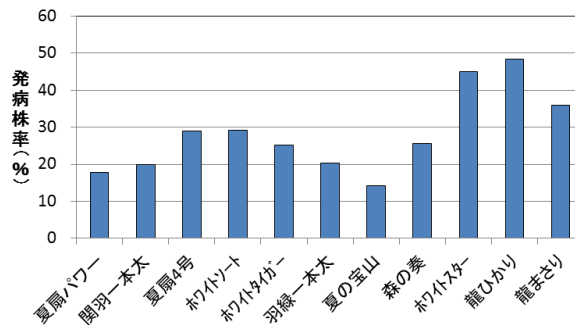


図3 各品種におけるネギ褐色腐敗病発生状況

ネギ褐色腐敗病の防除は作型、品種、消石灰およびオオムギ緑肥を組み合わせることによって総合的な対策が必要です。また、オオムギは天敵を保護するバンカープラントとしての効果が期待されます。

表1 消石灰とオオムギ緑肥による褐色腐敗病防除効果

処 理	調査株数	発病株率 (%)	収穫量 (kg/10a)	比率	可販収量 (kg/10a)	比率
消石灰	561	8.2	2845	100	2097	100
オオムギ緑肥	532	8.5	2947	104	2178	104
消石灰+オオムギ緑肥	557	7.0	2920	103	2128	102
無処理	558	15.6	2831	100	2092	100